

『自民・民社に投票し、国鉄の「法案成立」を叫ぶ松崎』

動労を自民党と鉄労の奴隷へと変質させる「歴史的裏切りの大会」を許すな

動労千葉

86. 7. 3

No. 2283

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〜六（公衆）〇四七二二二七二〇七

産業報国会へ転落した松崎「動労」が「国会大会を断罪する」

NO.1

動労「本部」は七月八日から三日間、神奈川県箱根町において第四二回全国大会を開催する。動労革マルは松崎はこの大会で現行綱領を見直す。動労を解散し「鉄労と組織統一」を多くの組合員の反対の声を押しつぶして決定しようとしている。さらに、その場に運輸相は三塚と国鉄総裁は杉浦を「招待」しようというのである。まさに、産業報国会化そのものだ。動労四二回大会を「動労さいご」の大会にしてはならない。動労革マルの大反動方針を弾劾し、革マル分子をいまこそたたき出し、国鉄分割・民営化阻止に決起せよ。

松崎方針は、前人未到の大裏切り
俺は裏切り者でいいんだと居直り

運動方針案の「主なたたかいの総括」のうち、冒頭の「総括にあたって」の項において、動労革マルは松崎は自から犯してきた大罪に対して完全に居直り、「この一年間のたたかいは雇用・組織を守るたたかいで、これは前人未到のものであり、苦悩に満ち、中傷・誹謗と妨害のなかでのたたかいであった」と吐露している。

国鉄当局の手先となって、国鉄労働者の首切り執行人となり、国労・動労千葉破壊に血道をあげてきた松崎は、すべての労働者から「裏切り者」の烙印をおされ、当然にも苦悩の淵にたたきこまれたのだ。

自民党に転向を誓約
「組合綱領」を破棄し動労解散を約束

全国大会にむけた動労一三〇回臨中委で松崎は「国鉄分割・民営化に全面賛成する」「現綱領を見直し新綱領をつくる」「国鉄法案の成立を促進する」「同日選挙では自民党も推薦する」との方針をうちだした。

これより先に松崎は、自民党機関紙『自由新報』で「民営的手法を発揮できるのは分割しかない」として、「次期大会

で綱領を変える」ことを誓言していた。鉄労などから「偽装転向」と批判され、転向の証しを自民党機関紙でやった。これほどの身の証しはない。

「分割・民営化賛成」
国鉄法案成立を叫ぶ松崎
選挙では「自民、民社」に投票し

松崎は方針書の中で「雇用を守る」ため骨身を削り、「国鉄を国鉄として残すため奮闘する」といった動労方針を反映させた、としてもちあげた「総評・社会党」案すら投げすて、「分割・民営化」賛成を公言した。

そして、選挙闘争について「動労の共闘を理解し、支援する候補者について党派をこえて推薦する」社会党を外し、自民・民社党にも入れる、というのである。松崎は「分割・民営化賛成」国鉄法案の成立促進へ足を踏み入れた。国鉄法案とは、国鉄を分割し解体し、十万人首切りを促進する悪法で、国鉄労働者がとうてい受け入れられるものではない。

分割・民営化に賛成して「雇用」が守れるはずがない。松崎は方針書の中で「動労の利便性を高める取り組みで、十一月ダイヤ改で列車増発など要求を前進させた」と賛美しているが、十一月ダイヤ改こそ、八万人大量首切り攻撃なのだ。

(以下つづく)